

市民との協働による外来魚駆除

大阪府環境農林水産総合研究所
「水生生物センター」
内藤 馨・宮下 敏夫

近年、大阪府のため池や河川ではオオクチバスやブルーギル等の外来魚が増加し、水辺の生態系に大きな影響を与えていることが懸念されている。このような状況の中、市民の注目が外来魚駆除活動に向けられつつある。その際、行政は積極的に調査研究成果を普及させるなど、行政と市民が協働することにより、よりよい水辺環境の再生へ発展していくと思われる。

1. 親水公園における外来魚駆除事例

寝屋川市美井元町の三つ池は、元々ため池であったが、現在は親水公園として整備されている。近年、外来魚が増加し、かつて生息していたモツゴやスジエビ等が見られなくなっていた。そこで、2004年から水生生物センターが地元の市民団体「水辺に親しむ会」と協働し、外来魚のモデル駆除事業を実施している。年に数回地曳網や投網による駆除を続けたところ、モツゴ、ヨシノボリおよびスジエビ等が増加してきている。

2. 淀川における外来魚駆除事例

近年、淀川では外来魚が魚類相の40%を占め、在来魚への悪影響が確認されている。このため、淀川においても外来魚駆除に関する市民活動が実施されるようになってきた。

2.1 市民団体による取り組み

「琵琶湖を戻す会」によって、2006年、2007年のいずれも4月に、淀川下流域にある城北ワンド全域で外来魚駆除釣り大会が実施された。2006年は市民106名が参加し、オオクチバス29尾(0.6kg)、ブルーギル1,278尾(36.1kg)、2007年は182名が参加し、オオクチバス23尾(8.6kg)、ブルーギル987尾(40.8kg)を駆除できた。水生生物センターはこのイベントに協賛し、駆除した外来魚を調査研究に利用した。

また、水生生物センターでは「水辺に親しむ会」の協力を得て、2007年8月25日に城北ワンドにおいて小中学生を対象に「淀川ワンドの生きもの教室」を実施し、その中で釣り体験を行った。釣れたのは、オオクチバスとブルーギルだけであった。2007年10月13日には水辺環境保全セミナーの一環として、大阪工業大学で市民の方に外来魚の悪影響についての講演を行い、城北ワンドで各種漁具による外来魚駆除の実演を行った。

2.2 河川レンジャーによる取り組み

国土交通省淀川河川事務所の各出張所管内で、河川行政と地域住民との橋渡し役として河川レンジャーが任命されている。河川レンジャーによる活動の一つとして、毛馬地区が2006年10月21日、2007年4月29日(琵琶湖を戻す会と共催)および10月28日に淀川の城北ワンドでの外来魚駆除釣り大会、山崎地区が2007年10月6日に淀川水系の芥川における地曳網、投網による外来魚駆除作戦を実施している。この取り組みに対し、水生生物センターでは外来魚に関する講師派遣、地曳網による駆除の実演等を行っている。

2.3 教育機関による取り組み

2007年7月5日に大阪市立中浜小学校が淀川ワンド学習会を開催し、水生生物センターは外来種の悪影響や在来水生生物の保全に関する講習と釣り体験のサポートを行った。その他、近畿大学や大阪工業大学と協働して、城北ワンドにおいて、外来魚駆除効果調査を実施しているところである。